

平成29年度 実績(採択事業②)

—静岡県ヘルスケアビジネスモデル構築・実証等事業—

テーマ	イ 地域資源を活かした非日常体験により健康への行動変容を促す事業
実施主体	羽立工業株式会社(湖西市)
事業名	健康づくり教室運営支援サービスの事業化
概要	オリジナル健康紙芝居のシリーズ化による、行政等が行う健康づくり教室の運営人材育成と社会参加による効果の検証 ⇒ 健康教室担い手、受け手双方とも社会参加して元気に！
ポイント	地域の中高齢層が地域の高齢者の健康づくりの担い手として社会参加することで、担い手・受け手双方の健康をサポート



塩辛いもの 実生活の習慣

とりすぎていませんか？
日本人の1日の平均食塩摂取量は、
目標よりどれくらい多いでしょうか？

- ① 小さじ約半分(約3g)
- ② 小さじ1杯(約6g)
- ③ 200ccのコップ1杯(約240g)

コソコソ
おしゃべり
はははは

低栄養 実生活の習慣

になっていませんか？
食生活において、高齢になるにつれてみられる
身体機能の変化にはどんなことがあるでしょうか？

- ① かむ力、飲み込む力の低下
- ② 味覚の低下
- ③ 嗜好の変化

アアアア
アアアア
アアアア

ライフスタイルに合った「活動の習慣」を 社会生活の習慣

取り入れてみませんか？
社会参加している人の死亡率は、していない人に
比べてどのように変化するのでしょうか？

- ① 10%増加
- ② 5%低下
- ③ 30%低下

社会参加している人は死亡率が低いことがわかっています

家庭内に役割を 社会生活の習慣

持っていますか？
日本人女性の家事の役割分担の割合が
世界的に高いものはどれでしょうか？

- ① 掃除
- ② 食料・日用品の買い物
- ③ 家族の病気の世話

お掃除
お買い物
お世話

実施した事業の概要

ビジネスモデル の構築

1 先進事例の調査、アンケート

- ・厚生労働省の「健康づくりコミュニティの担い手は地域の前期高齢者」という方針により、自治体とともにボランティア主体の健康づくりコミュニティづくりに貢献
- ・既存の取組の中で、ボランティアが健康教育として体力測定の意味に関するかみしばいを1種類使用して即戦力のボランティアを養成

2 構築したビジネスモデル

- ①地域の高齢者を対象とした、既存の運動を中心とした健康教室を行う自治体との調整
- ②教育コンテンツとしてのバリエーションを増やした健康かみしばいを作成
- ③既存の健康教室に、複数回地域の前期高齢者ボランティアによる健康かみしばいを導入
- ④ サービス提供後にボランティア及び受益者となる地域の高齢者、教室主催者である自治体にアンケート実施

トライアルサー ビス(実証)の 実施

1 実施期間

平成29年11月～平成30年2月

2 対象者

- A ボランティア(教室運営を行う高齢者) 35人
- B 教室を受講する高齢者 117人
- C 市町の担当者 県内5市町

3 実施内容

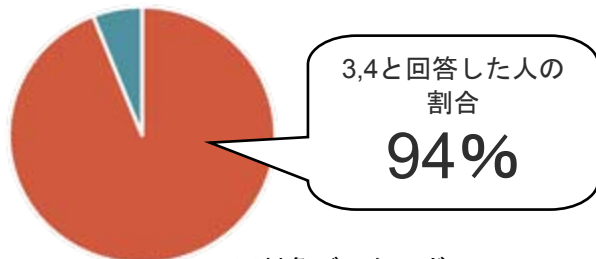
- A ボランティア ①かみしばい実施 ②研究開始時と終了時にアンケート実施
- B 教室を受講する高齢者 ①アンケート実施
- C 市町の担当者 実施記録を記入

実施した事業の成果

1 健康かみしばいの有効性

Q.わかりやすく健康知識を伝えられたか？

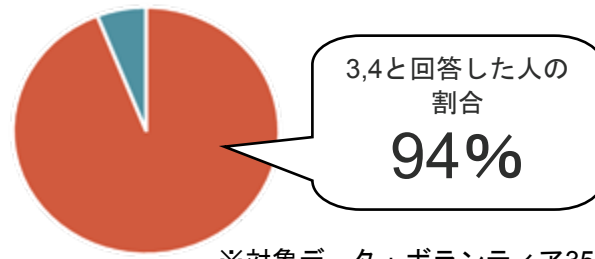
そう思わない 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 そう思う



※対象データ：ボランティア35人

Q.ボランティア活動の充実につながるか？

そう思わない 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 そう思う



※対象データ：ボランティア35人

2 健康の行動変容

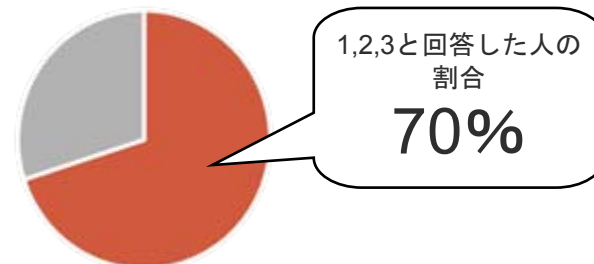
Q.運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか？

1. 既に改善に取り組んでいる（6ヶ月以上）
2. 既に改善に取り組んでいる（概ね6ヶ月未満）
3. 近いうち（概ね1ヶ月以内）に改善するつもりであり、少しずつ始めている
4. 改善するつもりである（概ね6ヶ月以内）
5. 改善するつもりはない

■ボランティア-事前



■ボランティア-事後



かみしばいを実施

※対象データ：ボランティア35人

生きがい創出効果と継続的なビジネス展開への課題

(ア) 地域住民の生きがいや役割の創出効果（アンケート抜粋）

- ・ ボランティア側が参加者の前で読むために、内容を読み込み、わからないところは調べて臨んでおり、スキルアップになったと考えられる。
- ・ 紙芝居がツールになり、健康づくりについて考えるきっかけになっていると紙芝居を実施した側も感じている。
- ・ 言葉が難しいので、読み手が言葉をわかりやすく言い直したり、補足したりして読んでいた。

(イ) 収益性及び継続的なビジネス展開に向けての課題

- ・ 想定した定価での複数購入は困難
- ・ 高齢者が行うサロン等で購入するには、設定した定価は少々高め

実施した事業の考察

- ボランティアが健康かみしばいを使用することで、参加者に健康知識をわかりやすく伝え、健康的な生活習慣への行動変容の動機付けができ、ボランティア活動の充実につながることが分かった。
- 健康かみしばいを使う前と後では、ボランティアの生活習慣の改善に取り組む割合が増加した。また、ボランティアと高齢者を比較すると、ボランティアのほうが生活習慣改善意識が高い傾向がうかがえた。
- 参加者の様子から、健康かみしばいそのものの対話型だという特性と、参加型のつくりがコミュニケーションをはずませることにつながると推測する。
- 課題としては、専門的な難しい知識をもっと簡単化し、ボランティアにとっても参加者にとっても使いやすくなることなどがあげられる。
- 健康づくり教室において、自治体が健康かみしばいを活用することにより、ボランティアの社会参加を促し、高齢者の生きがいづくりを推進するビジネスモデルを構築する。
- 健康かみしばいは、ボランティアが簡単に扱うことが出来る健康教育ツールとして、自治体でのニーズがあると分かり、全国での販売シミュレーションを組み立てることができた。